

令和4年度 全日音研全国理事会〈報告〉

令和4年11月18日

開催日 令和4年10月31日(月)
会場 KDDI維新ホール(山口)
出席数 支部長(理事) 出席27名+委任状15名 計42 総数47名
役員・本部常任理事 出席24名 計24 総数43名
*過半数の出席で成立

【報告】

- I 開会あいさつ 富山県支部長 土田泰美 校長(令和5年度開催県支部長)
- II 会長あいさつ 全日本音楽教育研究会 会長 福井 直敬(欠席のため小松より)
- III 歓迎のあいさつ 全国大会山口大会(総合大会) 大会会長 松田 和寛
- IV 参加者自己紹介・令和4年度本部役員紹介(理事会資料2ページ)
- V 議長選出 大阪府支部長 大阪市立東粉浜小学校 津田 毅 校長
東京都支部長 東京都葛飾区立大道中学校 角 康宏 校長

VI 議 事

【審議事項】

- 1 令和2・3年度 本部事業報告及び、決算報告(含む全国大会)及び監査報告
- 2 令和4年度 本部業計画及び、予算案(含む全国大会) 事務局、監査より
・資料3～8ページ
・一括審議 質問他無し
・拍手多数で承認
- 3 全日音研全国大会開催地決定に関する規定【改正本部案】について〈審議〉
～コロナ後の持続可能な全国大会開催方法への本部改正案～ 事務局長より
・資料9ページ コロナ後の持続可能な全国大会開催方法への規定改正趣旨
・別紙資料 全日音研全国大会開催地決定に関する規定【改正本部案】の説明
《質疑内容》
Q:Ⅲ-2にレセプションは適正な規模、とあるが適正の基準は何か？
A:人数など具体的基準は無いが、規模拡大傾向を押さえ、準備作業の加重を防ぐ趣旨。
Q:開催の有無も含めて、開催地(県)の判断により規模、内容をきめる方向で良いのでは。
A:「開催地の判断により」の文言を入れた記述に改めて作成する。

・審議 拍手多数で承認
- 4 「全日音研全国大会の研究実践に継続性・連続性を位置づける取り組み」の
令和6年度全国大会旭川・上川大会以降の〈継続的研究の視点3項目【本部案】 事務局長より
・資料10.11ページ を説明
《質疑内容》
Q:令和6年度からの継続3視点の①(アクティブ・ラーニング)は、5年間継続を考えると学習指導
要領次期改訂では「令和の日本型学校教育」の構築を目指す、個別最適な学びと協働的な学
びの実現等に置き替える必要も考えられると思う。
A:5年間の継続自体が目的ではないので、学習指導要領改訂の重要課題に対応して変更も考え
られる。その際は、本会(全日音研本部全国理事会)で提案審議をお願いし、決定することにな
ります。
Q:同じく継続3視点の①で「趣旨」の記述がやや弱いと感じる。
A:本資料に記述した「趣旨」は本部案作成上の趣旨であり、大会で実際に継続設定する上での
「趣旨」は開催実行委員会で柔軟に設定することになります。

Q:重要な研究視点を決める上で、更に時間をかけての各県検討などの時間は無いのか。
A:本来は令和3年度八戸・三戸大会時の全国理事会で決定の計画(資料P10の3:3項目)であった。令和6年度の旭川・上川大会の授業研究開始を考えると本日の決定が必要。

・審議 拍手多数で承認

5 全国大会輪番開催第2期の地区開催順の確認、及び開催県決定の依頼 事務局長より
・資料12ページの説明

- ① 別紙「全日音研全国大会開催地決定に関する規定【改正本部案】」のⅡ-1(2)のとおり、第2期以降(2027年度以降)も原則的にこの輪番を維持して開催地区を決定する。となっているが、本会で第1期の開催順で良いかの確認が必要である。
- ② P12下段の「令和9年度以降の開催県順」は本部が収集した各地区内の地区音研開催順の情報である。各地区音研で標記の開催順で変更の必要について確認をお願いします。
- ③ 令和9,10年度の全国大会に関しては、地区音研との日程重複を避ける為にも早めの開催県順を確定していただきたい。※全日音研から別途、確認の連絡を開催県に致します。

・一括審議 拍手多数で承認

VII 議長解任

【報告事項】

司会 理事長 荒川徳子

1 令和5年度全日音研全国大会開催地から報告

- ① 小・中学校部会大会、高等学校部会大会 富山大会 実行委員長 土田 泰美 校長
別紙:第1次案内チラシを参照

- ② 大学部会大会 大学部会長 河野 正幸
・日程は未定だが、内容は小・中・高の先生方にも参加いただける方向を考えている。

2 情報交換 令和7年度全日音研全国大会佐賀大会について 別紙チラシ参照
佐賀県支部長 佐賀市立南川副小学校 熊本 輝美校長

3 他 報告

VIII 閉会あいさつ 北海道支部長 足立 教 校長(令和6年度開催地支部長)